

# 指扇小だより

教育目標 **やり抜く子の育成**

かしこく やさしく たくましく あたたく

令和8年1月30日 第10号  
さいたま市立指扇小学校  
〒331-0078  
さいたま市西区西大宮1丁目49-6  
電話 048-623-0133 FAX 048-624-2200  
<https://sashiogi-e.saitama-city.ed.jp>

## 非認知能力

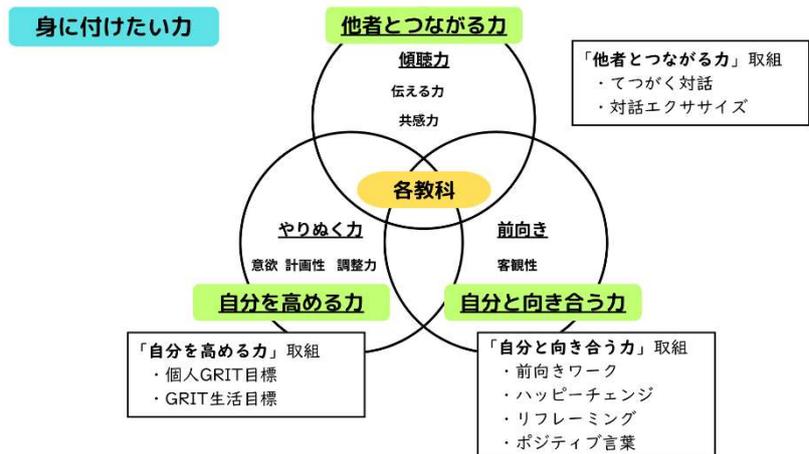
校長 小松 伸弘

立春を待つ2月になると、寒さの底にかすかな春の気配が混じり、子どもたちの表情にも次の学年に向けた静かな期待と不安が感じられます。

さて、本校では学校課題研究として、昨年度より「Well-being を実感する児童の育成～非認知能力の向上～」を研究主題に掲げています。テストや検査などで数値化できる認知能力に対し、非認知能力とは、テストでは測れない力のことです。文部科学省では「学びに向かう力、人間性等」と位置付けられています。

本校では、これを受けて「自分と向き合う力」「自分を高める力」「他者につながる力」を『身に付けたい力』として大切にし、教育活動に取り組んでいます。

非認知能力は、子どもたちが成長するための「心の土台」と言えるかもしれません。子どもは毎日小さな葛藤を通して育っていきます。物事が思い通りにならずに落ち込んだり、目の前の支度が進まずにイライラしたり…。大人の目には「困ったこと」に映る場面も、子どもにとっては上手に自分と向き合うための練習なのです。



ところで、御家庭ではどのように非認知能力を育てることができるでしょうか。ここでは、無理なくできる3つのヒントを御紹介します。

### 1 結果よりも過程を認め、成功を言語化する

たとえ失敗しても、挑戦そのものを認めることで勇気が湧きます。また、成功したときこそ、「なんでできたのかな？」と言語化させると、次回以降の再現性が高まると言われています。

### 2 子どものペースに任せて、心の中を観察してみる

部屋の片付けなど、つい口を出したくなる場面では「今どんなことを考えているのだろう」と一呼吸置いて観察してみると、子どもを急かすことなく、ゆっくり自立を育むことができます。

### 3 気持ちの名前を一緒に探して、時々リフレーミングする

気持ちを表す語彙が増えると、感情が整理されて共感力が培われます。また、「心配性というより慎重なのかも」と違う視点で言い換えることで、前向きに自分を捉え直す力が育ちます。

こうした日々の積み重ねが、お子さんの成長や自立を支える基礎となります。お子さんの中に、未来を切り拓く力が着実に蓄えられるよう、これからも伴走してまいります。